

## 国際420級のクラスルールに関する Q&A

この文書は、今年度から国体インターハイで導入されている国際420級(以下、420級と略記する)のクラスルールが、420級に乗る選手はもちろん、その監督や指導者にもクラスルールを浸透させ、公平・公正なレースが行われるようになることを目的としている。

Q1. メインハリヤードは金属(ワイヤー)で良いのか。

A1. 良い。

クラス規則にメインハリヤードに関する記載があるのは、C節のC.10.3.2.1とF節のF2.4 艀装の部分。ここには素材に関する記述はない。すなわちメインハリヤードに関しては素材の制限はなく、チタニウム以外の一般的素材は使用できる。

補足：元々はワイヤーハリヤードが一般的であり、近年ロープの性能が上がったことによりロープの使用が一般的になってきた。

Q2. トラピースワイヤーの一部にロープを使っても良いのか。

A2. 良い。クラス規則 F5.2 に書かれている通り、ハンドルから 500mm に限ってはロープの使用が認められる。長さが調整できる場合最大の長さで計測される。

Q3. バウに衝突したときにクッションとなるようなもの(添付写真)をつけて良いのか。

A3. つけてはならない。D節ハルとデッキのD4.2任意の部分で記載されていないので、つけてはならない。



同様にマストトップの浮体に関してもルール上取り付けて良いという記述がないため付けてはならない。

但し、各大会に於いてクラスルールの変更が行われ許可が明示された場合はこの限りではない

Q4. クラス規則 D4.2.2(h)で「スピンシート用のサイドタンクに固定された可動部のある又は可動部のないクリート 2 個。」と定められているが、可動部のないクリートから可動部のあるクリートに変える際、どの部分に付ければ良いのか。

A4. 特に指定はされない。

D.4.2.2 冒頭「義務、任意の位置又は寸法」に有るように、取付位置は任意である。

Q5. C 節-レースでの要件の C9.2(a)でプラーが任意艀装として認められているが、チョック(くさび)と同時に使用しても良いのか。

A5. 良い。

Q6. 任意艀装のプラーに関して、どのようにつけて良いのかが分からない。

A6. クラスルールで使用が許された、シート 1 本と取り付け具、そして可動部のないクリートのみが使用できる。

以下添付写真は、最新のボートに付けられているルールに適合したプラーの例である。



本写真のロープはマスト前側に有るが、実際はマスト後面に回してフォアプラーとして使用する物。この艇ではマスト前面はくさびを使用

Q7. 国内大会に出場するときに、既定の位置に国籍表示をする必要はあるのか。

A7. 無い。クラスルールの C10.3.1 は RRS 付則 G.1.3(a) 「貼り付け位置」に関する部分の変更であり、国籍文字要否の規定ではない。

国籍文字に関する規定は RRS 付則 G1.1 識別の(b)にあるように、国際大会では義務である。すなわち国内大会に於いてはその義務が無いため、国籍表示をしないことは問題ない。しかし、ISAF クラスであること、海外レースへの参加、国内大会でも大

きな大会は国際大会に位置づけられる可能性もあることから強く推奨する。

Q8. クローズの間にスピナーハーヤードを固定するためのフックは歯ブラシでも大丈夫なのか。

A8. 良い。

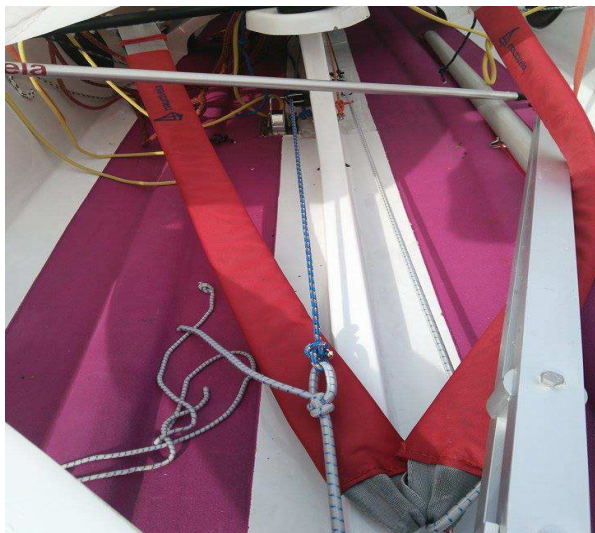
上記の役割を果たす装置に関する記載があるのは、クラス規則 D 節の D4.2.3(e)にある。その部分に、「スピネーカーをセットしない間、スピナーハーヤードを確保する装置が艇の両舷に 1 個ずつ。」とあり、装置に関する詳細な制限は無い。つまり、使用できる素材の制限（チタニウムの禁止）を守れば歯ブラシのような物も装置として認められる。

Q9. 「420」のエンブレムについてです。クラスルールに、大きさについての記載はあるが、スターボード側のエンブレムとポート側のエンブレムは、どちらがリーチ側に来ても問題ないのでしょうか。（以下、参考画像）



A9. 問題ない。エンブレムに関して、クラス規則上はトップバテンの下に並べて配置することとありどちらが前、後という規定はない。また RRS 付則 G では裏表重ねて貼るかスタボー側を上にする様に記述があるが、クラスルールはこの部分を変更していると解釈すべきである。

Q10. スピンハリヤードがたるまないように、ショックコードで引いていても良いのか。(添付写真)



A10 問題ない。

F.2.4.2 に有るとおりスピンハリヤードの端に弾性コードを取り付けても良い。但し、弾性コードのみが使用でき、ブロックやフェアリーダー、又は艇の穴等を利用して弾性コードの方向を変えることは許されない。

Q11. タイマー機能のあるデジタルコンパスとタイマーは併用しても良いのか。

A.11. 良い。

クラス規則 C5.1 の 2) にコンパスと計時機器に関する記載があり、方位、方位記憶、計時の機能が使用できる。

Q12. 添付写真のように、スプレッターとシュラウドを弾性コードで結び、スピネーカーのトップがスプレッターに引っかからないようにするのは、クラスルール違反か。



A12. 問題ない。

クラスルール F.2.4.8 に記載されているようにスピネーカーハリヤードが絡むことを防ぐための装置をスプレッター又は（および）リギンに取り付けることが出来る。

Q13. プラーを使用する際に、「ロープ」としてワイヤーロープを使用することは可能か

A13. 使用してはならない。

本ルール中ではフォアステー、シュラウド、トラピーズ等はワイヤー（スティールワイヤー）と表記し、金属製ワイヤー以外のロープをロープ又は弾性ロープという用に素材毎に使い分けている。従ってこの文中ではロープという表記のため繊維製ロープに限られる。（国際420協会チーフメジャーによる）

Q14. センターボード引き下げ用のロープ端に付ける弾性コードをセンターケースに回しても良いか？



A14. できない。

クラスルール E.2.4(b)に有るとおりセンターボード引き下げ用のシステムに使用できるロープの方向を変えることが出来る艀装品は1つのブッシュだけである。このブッシュ以外でロープの方向を変えることは許されない。

解説：ロープの方向を変える部分をターニングポイントという表現を使います。ルール中でブロック、フェアリーダー、アイ等は全てこのターニングポイントであり、その数を厳しく制限しています。従って、ルール文中に有るターニングポイント数を超えた方向の変更は一切出来ません。

C.6.2 及び D.4.2(a)にある「明記された場合を除きコントロールライン、シート、ロープの方向は、艇のシャックル、リング、ループまたは穴により修正しないこと。」という部分はルールで許されたターニングポイントを以外でロープの方向を変更することは出来ないという意味で使われています。(国際420協会チーフメジャーより)



Q16. C.5.2で規定されている曳航ロープの取り回し（船首でつかむ事が出来る）を満たすためにテープで貼り付ける代わりにフォアステーのシャックルに通してセットしても良いか？



A. 良い。

但し、フォアステー取付金具は横方向の力を受けるようには作られていないため船を壊すおそれがある、壊れないまでもシールが切れ水漏れの原因ともなるため推奨しない。

日本420協会 計測委員長  
東島 和幸